

令和5年12月12日
(2023年)

保護者の皆様

吹田市立片山中学校
校長 河合 克子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返しました。また、吹田市でも、今回実施した結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、中学校最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みをすすめるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

◇ 国語

<概要>

全体の平均正答率は全国平均値(以下全国値)をやや上回りました。学習指導要領の内容【知識及び技能】「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」について、【思考力・判断力・表現力等】「書くこと」については、全国平均を上回りました。問題形式では、「選択式」「記述式」が全国値をやや上回り、「短答式」が全国値を上回りました。

内 容	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項 ◇ 「事象や行為、心情を表す語句について」理解することは、できています。 ◇ 「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに、課題があります。
	情報の扱い方に関する事項 ◇ 「意見と根拠など情報と情報の関係について」、「具体と抽象など情報と情報との関係について」理解することに、課題があります。
	我が国の言語文化に関する事項 ◇ 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」ことは、できています。 ◇ 「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする」ことに、課題があります。
思考力 判断力 表現力 等	話すこと・聞くこと ◇ 「目的や場面に応じて質問する内容を検討する」こと、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」ことは、できています。
	書くこと ◇ 「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」ことに、課題があります。
	読むこと ◇ 「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」こと、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」ことに、課題があります。

<国語科における成果と今後の課題について>

ほとんどの設問において、正答率が全国値を上回っており、生徒の日々の国語科における学習の成果を確認することができました。国語科の授業での主体的な学習を中心とした積み重ねが成果として表れています。

「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに課題がありました。意味や用法などの知識を習得し、書く活動を通して、漢字を正しく用いることができるよう指導してまいります。また、意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるように指導してまいります。

◇ 数学

<概要>

全体の平均正答率はすべての項目において全国値を上回りました。領域では、「図形」は、全国値を大きく上回り、「数と式」「関数」「データの活用」では全国値を上回りました。評価の観点では、【知識・技能】、【思考・判断・表現】は全国値を大きく上回りました。問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」すべての区分において、全国値を上回りました。

内容	
数と式	<ul style="list-style-type: none">◇ 「自然数の意味」を理解することに課題があります。◇ 「数と整式の乗法の計算」をすること、「問題場面における考察の対象を明確に捉える」ことは、できています。
図形	<ul style="list-style-type: none">◇ 「空間における平面が同一線上にない3点で決定される」ことへの理解に、課題があります。◇ 「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る」ことに、課題があります。
関数	<ul style="list-style-type: none">◇ 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことに、課題があります。
データの活用	<ul style="list-style-type: none">◇ 「累積度数の意味を理解する」ことに、課題があります。◇ 「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことに課題があります。

<数学科における成果と今後の課題について>

ほとんどの設問において、正答率が全国値を上回っており、生徒の日々の数学科における学習の成果を確認することができました。少人数指導など工夫した学習の取り組みなど、日々の学習の継続が成果として表れています。しかし、問題を分析し、数学的な表現方法を用いて説明することに課題があります。問題を解く過程を大切にしながら、数学的な考え方の育成に努めてまいります。

◇ 英語

<概要>

全体の平均正答率はすべての項目において全国値を上回りました。領域では、「書くこと」「読むこと」は、全国値を上回り、「聞くこと」は全国値をやや上回りました。評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国値を上回りました。問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」すべてが全国値を上回りました。

内 容		
思考力 判断力 表現力 等	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「情報を正確に聞き取る」ことは、できています。 ◇ 「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る」ことは、課題があります。
	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「『事実・情報を伝える』と『考えや意図を伝える』という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読む」ことは、できています。 ◇ 「文と文との関係を正確に読み取る」ことに、課題があります。 ◇ 「日常的な話題について、短い文章の概要を捉える」ことに、課題があります。
	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由について書く」ことに、課題があります。 ◇ 「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く」ことに、課題があります。 ◇ 「『相手の行動を促す』という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く」ことに、課題があります。 ◇ 「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」ことに、課題があります。

<英語科における成果と今後の課題について>

ほとんどの設問において、正答率が全国値を上回っており、生徒の日々の英語科における学習の成果を確認することができました。日ごろの授業の中で、習得した知識や技能を使ってコミュニケーションを行う、状況に応じて活用する学習の積み重ねが成果として表れています。「聞くこと」の領域における課題については、自分の置かれた状況を把握し何を聞き取るか理解し、それらに関連する語句や表現に着目して情報を聞き取ることができるよう指導してまいります。「読むこと」の領域における課題については、文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることができるよう指導してまいります。「書くこと」の領域における課題については、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を取り入れ指導してまいります。今後も、主体的で対話的な学習活動の充実を図っていきます。

2. 生徒質問紙の調査の分析

主体的・対話的で深い学びに関する質問	【質 問】 ◇ 授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。 ◇ 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
	ほとんどの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に答えています。全国値より高い割合でした。主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる生徒が多いことがうかがえます。

(生徒質問紙の調査の分析つづき)

個別最適な学びに関する質問	【質問】 ◇ 授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている。
	多くの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値よりも高い割合でした。
	【質問】 ◇ 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する質問	多くの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値よりも高い割合でした。
	【質問】 ◇ 自分には、良いところがあると思う。
	多くの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値とほぼ同じ割合でした。
	【質問】 ◇ 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う。
	ほとんどの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値よりやや高い割合でした。
	【質問】 ◇ 学校に行くのは楽しい。
	ほとんどの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値とほぼ同じ割合でした。
	【質問】 ◇ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ◇ 人が困っているときは、進んで助ける。
	ほとんどの生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値よりやや低い割合でした。
	【質問】 ◇ 将来の夢や目標を持っていますか。
半分以上の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えています。全国値よりやや低い割合でした。	

<成果と課題について>

ほとんどの生徒が、「学校に行くのは楽しい」と回答しており、生徒たちは、片中での学校生活が充実していると感じていることがうかがえました。また、「いじめは許さない」「困っている人を進んで助ける」などの質問にもほとんどの生徒が肯定的に答えており、いじめ予防授業や道徳教育の取り組みなどとおして、生徒の意識が醸成していることを表しています。引き続きこれらの教育活動を継続し、相手の立場になって考えることができる人権意識を持った豊かな心を持つ生徒の育成に努めてまいります。

3. 今後の取り組み

本調査の結果により各教科の学力や学習状況について分析した内容については、今後、検討し、指導の充実や学習状況の改善に努めてまいります。

学習指導要領に基づき、子どもたちの資質や能力を育成するため、今後も「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業の工夫や改善、子どもたちが自ら学習を振り返り次の学習に向かうことができるよう、学ぶ意欲を高める学習評価の在り方について研究を進めてまいります。また、生活習慣や学習習慣等の結果を踏まえ、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることができるよう指導を継続してまいります。

今後とも、生徒の自立と幅広い学習の機会を作るため、ご理解とご協力をお願いいたします。